

御華翰ありがたく拜見估りました
立春雨水とすぎまして雛の祭も近く当地は日ざし
も何となく春らしくなつてまおりましたしかし朝夕は
余寒を覚へます御地方は未だ雪の日が多く春にはま
だ遠いことでございます

拜承仕れば長年の学校の方退職方され目下は悠々御
自適日々を過びして居られます極此の共御清安を祈り
ます

叔拙作のやうなものに御目をとめて下さり本當に赤く
存じ上げます 詩を書きまして五十年 くらゐのもの
みては洵に御恥づかしい次第ですと申し乍ら今更詩
と別れることは出来ません そんな風ですからいつまでたつ

ても様^{うら}があかりず私けよいとしましても家族は少は
あはれです ー詩を作るより田を作れであつたとひと
り苦笑になつて居ります それにしまして私の詩の
如きを御評み下さる方々があるかと思ふと限りたふら二は
を頂戴します

先は御挨拶まで申し上げます
余寒の折御加賀を念じ上げます

昭和四十六年二月二十三日

敬具

田中冬二

山下久男様

二月二十三日

19/

日野市豊田へ。

田中冬二